

大牟田・荒尾炭鉱物語

国内では最初の石炭発見!

石炭の利用は、明治の文明開化以後に始まったと思っている人は多いのではないのでしょうか?実は江戸時代でも石炭は使われていました。三池地方で初めて石炭が発見されたのは、今から500年以上も前の、文明元(1469)年のことだと伝えられています。伝承によると、薪を拾いに山へ出かけた地元の農夫の伝治左衛門夫婦が、山上で焚き火をしている折に燃える石を発見したそうです。この伝承が正しければ国内では最も早い石炭発見の記録です。



三池石炭発見伝説図

関連する主な見所

- ①石炭露頭 高取山北側に広がり、高取郡などで見ることが出来ます。
- ②藤本伝説墓 藤本伝治は、江戸時代に石炭探掘販売事業に成功した人物です。墓には瀬戸内の海運業者の名も記されています。
- ③稲荷神社 炭鉱の安全祈願のために、三池藩によって建てられた神社です。

地元の対立が原因で三池炭鉱は明治政府の手に!!

江戸時代の石炭は高取山のふもとで採掘されていました。この辺りは、柳河藩と三池藩の境界にあたり、それぞれの藩で石炭を掘っていました。ところが石炭層は地下ではつながっていますから、境界を巡って互いの対立は絶えず、それは明治時代になっても変わりませんでした。紆余曲折あった末、明治6(1873)年、政府に官収されることとなります。以後、近代化のモデル炭鉱として近代技術が導入されることになりました。



福岡村大浦炭坑山の間

関連する主な見所

- ④三池炭山創業碑 官営時代の三池炭鉱の歴史が記されています。
- ⑤大浦炭坑遺址碑 大浦炭坑は三池炭鉱で最初に近代技術が導入されました。記念碑が旧三池港倶楽部敷地内に移設保存されています。
- ⑥七浦炭坑 レンガ造の旧第一立坑捲上機室は、官営時代三池炭鉱の現存最古の建築物です。

日本有数の炭鉱は、囚人の労働に支えられていた!

明治時代初期の北海道開発を囚人が担ったことは広く知られていますが、実は三池炭鉱の採炭も囚人労働に支えられていたのです。当時は専門の鉱夫へのなり手が少なく、安定的な炭鉱労働者の確保に困った政府は、そこに囚人をあてることに決めます。明治16(1883)年には西日本唯一の政府直轄の刑務所として、三池集治監が建設されました。最も多いときで2000人以上が収監され、宮原坑などで働いていました。



三池集監正門

関連する主な見所

- ⑦集治監跡(現三池工業高校) 県指定文化財。集治監と併設していた高さ5mの外堀と石垣などが一部残されています。
- ⑧宮原炭坑 国指定史跡/文化財。労働の過酷さから修羅坑と呼ばれたと伝えられています。第二立坑の捲上機室が保存されています。
- ⑨解説塔 亡くなった囚人労働者の菩提を弔うために建てられた供養塔です。

三井に払い下げられた三池炭鉱に水没の危機が?

官営三池炭鉱は払い下げによって、明治22(1889)年から三井に経営が引き継がれます。ところがその後、大地震と豪雨によって開墾中の勝立坑が水没してしまいます。そのため湧水の多い三池炭鉱の放棄まで検討されました。この危機を救ったのは、当時三池炭鉱の責任者だった團琢磨です。團は「将来にわたって三池を生かすか殺すかという重大な問題である」と訴え、新型のディーゼルの導入を三井に認めさせ、勝立坑の排水を成功させます。



勝立坑

関連する主な見所

- ⑩勝立坑跡 現在は、人の昇降に用いられた第二立坑捲上機が残されているだけです。
- ⑪万田坑跡 国指定史跡/文化財。勝立坑、宮原坑に引き続いて開墾されました。深度268mは当時の三池炭鉱では最深だったため、ここから集中的な排水が行われていました。現在、第二立坑の捲上機室のほか、事務所や安全灯室などが残されています。

干満の差が5mの港で石炭を積出すための秘密とは?

遠浅で干満の差が最大で5m以上の有明海に臨む三池港には、国内の他の港にはない開門という設備があります。干潮時には鋼鉄製の門扉が幅20mの水路を仕切り、ドック内では常に水深8.5mを維持します。これによって干潮時でも、1万トン級の大型船が接岸して石炭の積み込みができるようになりました。ここまでして團琢磨が三池炭港を推進したのは、たとえ石炭が枯渇してしまっても、港を使えば産業を興せるとの考えを持っていたからです。



三池開門(完成入水前)

関連する主な見所

- ⑫三池港開門 水流ポンプで動く開門は現役です。大潮の日前後に開門しています。
- ⑬三井三池倶楽部 市指定文化財。高級船員の休憩所や社交場として用いられていた建物です。現在はレストランなどに使用されています。
- ⑭大金丸 今も三池港内に浮かぶ石炭動力の浮きクレーンです。当初は三池炭港に用いられていました。

石炭を燃やすだけでなく、もったいない!

石炭を蒸し焼きにするとコークスができますが、特有の臭いのする煙も発生します。そのまま捨てるとやっかいです。さまざまな利用法があります。大牟田でも大正時代からは、石炭を燃やして発生するガスを利用したガス発電所、ガスからアンモニアを回収し肥料の原料である硫酸を製造する硫酸工場、染料を製造する合成染料工場など、掘り出された石炭を原料とする工場が建ち並びます。これは日本最古の石炭化学コンビナートでした。



アンモニアガス圧縮機

関連する主な見所

- ⑮三井化学J工場 化学工場群の中でひと際目立つのが、白い7階建てのJ工場です。
- ⑯三井三池製作所鍛冶工場跡 かつては、炭鉱機械の製造・修理のための工場跡に建設されました。鍛冶工場の一部壁面が残されています。
- ⑰高射砲陣地跡 工場群を守るために築かれた、高射砲陣地跡が残されています。

エネルギー革命とともに訪れた炭鉱の危機と混乱!

昭和20年代後半になると、安くて使い勝手のよい重油や輸入炭に比べ国内炭の需要が減りはじめました。そんななか、経営の合理化を進めるための指名解雇通告をきっかけにした労働争議が昭和34(1959)年末に起こります。これは三池争議と呼ばれ、一年近く続く戦後最大の労働争議に発展しました。さらに争議の余波も残る昭和38(1963)年には、三川坑で炭塵爆発事故が発生し、458人が亡くなり839人が一酸化炭素中毒となる大惨事となりました。



三池争議時のコマ

関連する主な見所

- ⑱三川坑跡 昭和24(1949)年昭和天皇の入院、三池争議でのホッパー争奪戦、昭和38(1963)年の炭塵爆発事故など、戦後の大きな出来事の舞台となりました。
- ⑲荒木栄碑 荒木栄は「がんばろう」など三池争議でも歌われた労働歌の作曲家です。
- ⑳三川坑災害慰霊碑 延命公園内に建てられています。

炭鉱専用鉄道は石炭と人、そして歴史を運んだ!

かつて大牟田市の中心部を、炭鉱の専用鉄道が取り囲んでいました。炭鉱の発展にともなって、炭鉱の坑口や、石炭を加工する工場、出荷するための港、炭鉱で働く人たちのための社宅などが、鉄道で結び付けられていったのです。平成9(1997)年の三池炭鉱閉山とともに、一部を残し専用鉄道は廃止されました。しかし今も残る鉄道跡にそって歩くと、かつて炭鉱で栄えたまちの歴史をたどることができます。



石炭を運ぶ専用鉄道の電車

関連する主な見所

- ㉑宮浦石炭記念公園 国指定文化財。宮浦坑の煙突が残る公園からは、今も稼働する専用鉄道を見ることが出来ます。
- ㉒宮内駅跡、原万田駅跡 通勤に利用されていた駅の跡で、現在もプラットフォームが残っています。
- ㉓三川坑炭塵発電所 国指定文化財。専用鉄道へ送電するための発電所でした。現在は(株)サンデンの本社として利用されています。

遊学マップ

～大牟田・荒尾編～



お土産名産

- 草木饅頭** 大牟田土産といえばこれ。薄い皮の中は上品な白あんが詰まっています。
- お好み焼き** 大牟田荒尾地区では、人口あたり店舗数で見ると、九州で最も多くなっています。
- 荒尾梨** 荒尾梨(新高梨)は、別名「ジャンボ梨」と呼ばれます。果実の大きさが特徴。

九州の炭都

- 志免町(福岡県)** 特徴的な鉄筋コンクリート造の堅坑槽は、町のシンボルとなっています。
- 田川市(福岡県)** 炭坑節に歌われた大煙突と堅坑槽の他、石炭資料館では復元された炭鉱住宅などを見ることが出来ます。
- 長崎市(長崎県)** 洋上の炭鉱都市がそのまま残る端島(軍艦島)、日本最初の近代炭鉱高島などがあります。

交通



制作

このマップは、九州各団体の制作協力のもと、トヨタ財団研究助成プログラム「近代化とくらしの再発見:わたしたちが見つめる地域の歴史」の研究助成により印刷しました。

炭都のガイドを有料でお引き受けしています。ご興味のある方は下記までご連絡下さい。
TEL:0944-52-7026 FAX:020-4624-8613 E-mail:info-c@omuta-arao.net (大牟田・荒尾炭都のまちファンクラブ)

NPO法人 大牟田・荒尾 炭鉱のまちファンクラブ
〒836-0842 大牟田市有明町1-1-11 URL: http://www.omuta-arao.net/
協力: NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会
財団法人九州地域産業活性化センター
株式会社 鹿児島地域経済研究所

遊学空間 大牟田・荒尾 Tanto Map

「遊学」とは「遊び（従来の観光）」と「学び（教育・学習）」を組み合わせ、先人の知恵や技術、文化を楽しみながら学ぶ旅のことです。

大蛇山まつり

7月下旬には、開いた口から火を吹く大蛇をかたどった山車が、笛や太鼓お囃子とともに、大牟田の町を練り歩きます。大蛇とは大きな蛇ではなく、龍のことで、江戸時代の三池地方で始まりました。観光プラザ、彌劔神社、大牟田神社では、大蛇山を展示しています。

万田坑跡

【国指定史跡／重要文化財】

明治35年に開坑した万田坑は、20世紀前半における三池炭鉱の主力坑です。現在、第二立坑の鋼鉄製構と、レンガ造の捲上機室、扇風機室、汽罐場のレンガ塀や煙突跡を見ることができます。

小代焼

小代山の粘土をつかって400年前から焼き続けられている陶器です。釉薬を勢いよく振りかける、打ち掛け流しと呼ばれる技法が特徴です。荒尾市を中心に1.2の窯元があります。

万田炭鉱館

万田坑に関する資料が展示されています。入館無料。月曜休館。TEL: 0968-54-1300
また別に万田坑のガイドを行っています。一週間前までにお知らせ下さい。1人200円



大牟田市 石炭産業科学館

資料や模型を通じて、三池炭鉱の歴史と技術を知ることができます。またダイナミックトンネルには、実際に使用されていた採炭用の大型機械が展示されており、地下400mの坑道の雰囲気を感じられます。
目撃体験館 観覧料(大人)400円
TEL: 0944-53-2377

旧三井港倶楽部

【市指定文化財】
かつては高級船員の宿泊や三井の迎賓館として使われていた西洋建築です。三池港の建設に合わせ、明治41年に建てられました。現在は、レストラン・喫茶、結婚式場などとして一般に開放されています。

宮原坑跡

【国指定史跡／重要文化財】
明治31年に開坑した宮原坑は、排水と揚炭の大型機器を備え、明治後期の主力坑として、活躍しました。現在、第二立坑の鋼鉄製構と、レンガ造の捲上機室を見ることができます。

宮崎兄弟生家 宮崎兄弟資料館

【県指定史跡】
自由民権思想を掲げ西南戦争に参加した八郎、土地所有制度刷新を説いた民権、孫文に協力し中国革命を助けた滔天ら、近代日本の在り方を思想し行動した、宮崎兄弟の生家と資料館です。月曜休館。資料館観覧料(一般)210円

- 凡例
- 炭鉱にちなんだ遺構や建物
 - その他の史跡、文化財
 - ★ 観光施設など
 - ◆ 博物館・資料館
 - 主なホテル
 - 主なお菓子屋
 - 主なお好み焼き屋
 - 小代焼窯元

有明海